

市民運動としてのNPO

——1990年代のNPO法成立に向けた市民の動き——

成蹊大学名誉教授

高田昭彦 著

NPO法施行から20年、今改めて1990年代の「市民活動」を問い直し、日本へのNPOの導入過程とその後の展開について詳述。「市民社会」の実現に向けた足がかりを得る。

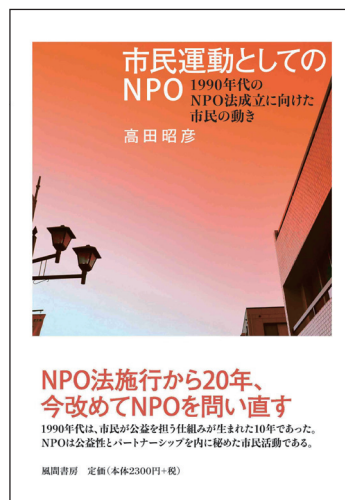
【著者紹介】

高田昭彦 (たかた あきひこ)

1947年生。成蹊大学名誉教授。

専門はNPO・市民活動論、環境社会学。

主要業績に論文「環境問題への諸アプローチと社会運動論」(『社会学評論』1995.3)、「市民運動の新しい展開」(『都市問題』2003.8)、「市民・NPOによる公的空間の創造」(『都市問題』2004.8)、単著『政策としてのコミュニティ』(風間書房 2016)、共著に『環境と生態学の社会学』(岩波書店 1996)、『環境運動と政策のダイナミズム』(新曜社 2001)、『社会運動研究入門』(文化書房博文社 2004)、『公助・共助・自助のちから』(風間書房 2006)など。



A5判・242頁 定価(本体2,300円+税)
ISBN978-4-7599-2230-1
2018年3月刊・好評発売中

序

第1部 NPOが登場した1990年代

第1章 1990年代の日本における市民運動

- 第1節 復興期・高度経済成長期からネットワーク導入まで
- 第2節 市民運動としての「ネットワーク」の展開
- 第3節 NPOの発見とその後の市民運動
- 第4節 NPO法の提案から成立まで
- 第5節 NPO法成立後の市民運動の動向

第2章 1990年代の市民運動がもたらしたもの

- 1. 「市民活動」における「公益」
- 2. 「市民活動」における「市民」の捉え方
- 3. 「市民活動」を行う「市民」の社会の中での位置づけ
- 4. 「市民」による「公的空間」の実現

第II部 1990年代の理解のために

第3章 1980年代のアメリカの草の根市民運動

- 1. 1980年代の市民運動の「新しい動き」
- 2. オルタナティブとしての草の根運動
- 3. 80年代の草の根運動がもたらした価値観と特質
- 4. 草の根運動の組織特性

第4章 1990年代の市民運動の「原型」

- 1. 「反原発運動ニューウェーブ」の登場
- 2. 「ニューウェーブ」の活動
- 3. 「反原発運動ニューウェーブ」の特性
- 4. 「ニューウェーブ」をどのように捉えればいいのか
- 5. 反原発オールドウェーブの意識と構造
- 6. 「反原発運動ニューウェーブ」登場の意義

第5章 パートナーシップによるまちづくり

- 1. 川越の蔵造りによるまちづくり
- 2. 蔵造りへの注目から「川越蔵の会」の誕生まで
- 3. 「川越蔵の会」誕生から「町づくり規範」の成立まで
- 4. 「町づくり規範」の限界から重要伝統的建造物群保存地区の指定まで
- 5. 一番街のまちづくりにおける地元住民と専門家と行政とのパートナーシップ
- 6. 伝建地区選定後に残された2つの大きな課題

川越 蔵造りのまちづくり年表

終章 本書によって明らかになったこと

おわりに／引用文献

好評の既刊

高田昭彦 著

政策としてのコミュニティ ——武蔵野市にみる市民と行政のパートナーシップ——

A5判 320頁 定価：本体2,700円+税 ISBN978-4-7599-2125-0 2016年刊

